慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	Preface
Author	奥田, 暁代(Okuda, Akiyo)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2021
Jtitle	教養論叢 (Kyoyo-ronso). No.142 (2021. 2) ,p.i- v
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小屋逸樹先生・小瀬村誠治先生・ロバート・ギブソン先生退職記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062752-00000142--006

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

2021 年 3 月をもって小屋逸樹先生，小瀬村誠治先生，ロバート・ギブソン先生が定年退職されます。その功績に感謝申し上げるとともに，長きにわたり法学部に貢献されてきた先生方ですので，ご退職は寂しい限りであります。

*

小屋先生は，1980 年に慶應義塾大学文学部英米文学科を卒業後，1990 年にバーゼル大学大学院で博士号を取得されました。慶應義塾大学法学部には 1991 年 4 月にご着任，そして 1995 年には助教授，2002 年に教授に就任されています。学部内での業務に加え，1999 年より 4 年ものあいだ大学学生総合センター副部長を務められたばかりでなく，2018 年から通信教育部学習指導主任の重責を担ってこられました。

小屋先生のご専門は言語学，とくに英語，ドイツ語，日本語の対照研究をされてきました。日本語の構文や意味についての研究として，「形容詞的，又は副詞的な意味を含む連体修飾「A の B」について」，「左縦書きと日本語の表記」，「《NP_1 デアル NP_2》をめぐって」，「指定ウナギ文と「NP_1 の NP_2」について」などの論文を発表されています。例えば「形容詞的，又は副詞的な意味を含む連体修飾「A の B」について」は，日本語の助詞「の」が介在する連体修飾表現が，英語やドイツ語の表現例に比べて多岐にわたり，その種類も豊富であることを示し，また現行の分類の是非について論じたものです。小屋先生のご研究は，言語学の分野では実に難問と聞きました。

小屋先生に初めてお会いしましたのは 1991 年，30 年も前のこととなります。慶應義塾外国語学校の講師をしておりましたが，その際にやはり非常勤で教えていらした小屋先生と何度もお話しさせていただく機会がありました。物腰の柔らかい洗練された雰囲気の小屋先生に，こうありたいと憧れました。知

識が豊富であるばかりでなく，それを魅力的に学生に伝える姿に，理想の教員像を見出したことをとても良く覚えております。英語を初めて教えた年に小屋先生に出会えたことはまさに幸運でした。関わっていらした英語の教科書についてご教示いただくなどまさに勉強の連続でしたが，たいへん驚かされましたのは，英語ばかりでなく，ドイツ語，イタリア語，スペイン語などいくつもの言語を自在に操られることでした。そして，ある時に香港で育った私の広東語の話に及びますと，小屋先生はぜひ勉強したいとおっしゃるのです。好奇心と外国語を学ぶ姿勢についても教えていただいたように思います。

その後，海外の大学院に進学しましたので，何年かお会いすることはありませんでしたが，たまたまお貸ししていた広東語の本をご丁寧に郵送でご返却いただき，とても恐縮したことも記憶に残っております。同封されていました，ご丁寧なそして温かいお手紙は今でも手元にあります。法学部に就職をして再会できました際は二度目の幸運と思いました。実際これまで様々な場面で励まされ，支えられてきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

*

小瀬村先生は，1978 年に慶應義塾大学工学部応用化学科を卒業され，1986 年に同大学で工学博士号を取得されています。1990 年から慶應義塾大学理工学部化学科の助手，1993 年に専任講師，2000 年に助教授，そして 2001 年には法学部助教授となられました。2005 年には法学部教授に就任されています。その間に理工学部化学科教室幹事，日吉化学教室幹事，大学学生総合センターの委員そして副部長もお務めになられています。日吉の自然科学検討部会の幹事，自然科学部門会主査など，学部を超えたお仕事もされました。

小瀬村先生のご研究には，「植物の光屈性」，「UV-B ダメージにより植物から遊離されるミミズの忌避物質」などがあります。前者のご研究では，さまざまな植物にはそれぞれ固有の光誘起生長抑制物質が関与しているという，植物の光屈性発現機構を解明されました。こういった光誘起生長抑制物質前駆体の単離にも成功され，光刺激による加水分解酵素の活性化および光誘起生長抑制物質の遊離機構についても示されたのです。後者のご研究は，オゾン層の破壊

などで紫外線照射量（UV-B）が増加した際に，それによりダメージを受けた植物組織から遊離される化学物質が生態系に及ぼす影響について明らかにしたものです。環境破壊による生命への悪影響が懸念される現在，小瀬村先生のご研究は，まさに期待されている分野と言えましょう。

小瀬村先生とは，ある委員会でご一緒して以来の長いおつきあいとなりました。委員会のお仕事は細部に至るまで完璧にこなされ，何があっても冷静沈着ですから，誰もが頼りにしていました。そのうえでユーモアもあり，たくさん笑わせていただきました。講義ノートにはジョークも書き込まれているとうかがい，それくらいしなければ，学生たちから笑いを取ることはできない，と納得したことを覚えています。そして，「受けた」ジョークとそうでないものもしっかり書きとめられていて，なるほど失敗からも学ぶものなのだ，とあらためて思うとともに，とても真似できないと感嘆するばかりでした。

真似できないことはほかにもたくさんあります。小瀬村先生は吹矢の名人です。授業中にもその特技を利用されるのだとか。それ以上に，短距離走の選手，マスターズ陸上選手権で優勝を目指すほどのスプリンターで，身近にそのような方がいることに驚くばかりでなく，実に励まされます。優勝というのは，その年齢区分で全国一位となるということです。いつも昼休みや授業後を利用して走っている姿を拝見しながら，継続するからこその実績とつくづく知るというのでしょうか。こちらも気持ちが前向きになれます。優勝を目指す小瀬村先生が，その夢を実現するその瞬間をその場で共有できることを目標にいたします。

*

ギブソン先生は，1976 年にエディンバラ大学をご卒業され，1998 年に同大学で修士号を取得されています。その間もベルリン自由大学で講師として教鞭をとられ，1998 年から慶應義塾大学法学部訪問講師（招聘）として英語インテンシブ・プログラムのコーディネイターを務められ，2001 年より法学部専任講師，そして 2006 年に助教授，2007 年に准教授となられました。ご専門の英語試験についての知識を駆使して，毎年，新入生のレベル分けテスト，インテ

ンシブの選抜テストなどを作成，また標準レベルから最上級までさまざまな授業をご担当され，法学部の英語教育に多大な貢献をされてきました。

ギブソン先生のご専門は応用言語学です。学部教育に直接に還元いただいたご研究の一つに，さまざまな検定試験のスコア換算，とくに CERF の枠組みの中での対照，があります。また，研究の方法として，思考発話法（Think-Aloud）を取り入れて学習者のモニタリングをした後でさらに面接を行うというメソッドがあるのですが，これを学習者自身に理解のプロセスを確認させるためのチェックリストを発案するなど，この分野に貢献されました。最新のテクノロジーを駆使するやり方を明示することで，研究のあらたなメソッドを示されています。

ギブソン先生とはたくさんの思い出があります。英語教育ということでは，リスニングやライティングの教材を紹介いただくばかりでなく，最新の教育方法をご教示いただきました。スピーキングの授業を担当しておりましたので，12 月にはクラスあげて劇を上演していました。年末と言えば先生方も皆さんたいへんお忙しい時期です。それでもギブソン先生はさまざまにアドバイスくださり，必ず上演も観にいらして，学生たちのためのささやかなパーティーにカンパまでしていただきました。学生との距離感が絶妙で，とても良い関係を築きながら，成績評価は厳しく，良い英語教育がどういうものかをいつも学ばせていただきました。

ひとつ忘れられない思い出があります。ギブソン先生が拙宅までいらしたことです。長男出産後そのまま春学期は授業を担当せず，育児に専念しておりました。多くの先生方に温かいおことばを頂戴いたしましたが，ギブソン先生はそれにとどまらず，わざわざ会いにいらしたのです。その時の光景が今でも目に残っています。そういったことを自然に行う，そんな素敵な方です。息子に小さなハンマーと釘（いずれも本物！）をプレゼントしていただいたこともありました。ギブソン先生らしいというのでしょうか，家具などを自作することはもちろんご自分で家を修繕したりもされるので，なにごとも妥協せず本格的になさるカッコいい一面の現れと言えます。学生に人気があるのもそういったところなのだろうと思いました。

＊

ご専門について研鑽を積まれる傍ら，学部のためにもさまざまご活躍いただきました。小屋先生，小瀬村先生，ギブソン先生のこれまでのご尽力に心より感謝いたします。

2021 年 2 月

法学部日吉主任　奥田暁代